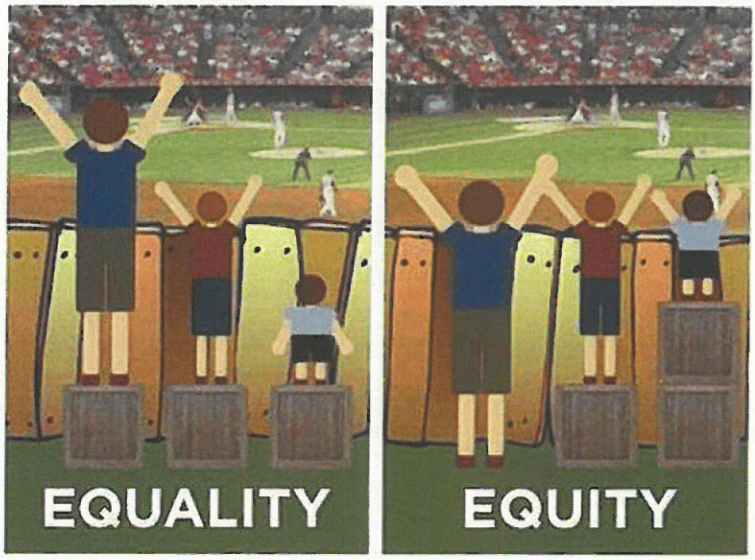
甲府西高　２年次だより

第12号　2020年2月28日(金)

Equality and Equity are different!!

英単語に「Equality」と「Equity」という似たような単語がある。実はこの単語は日本語に訳しても非常に似通った意味の言葉になる。一般的に**「Equality」は「平等」**と、**「Equity」は「公正」**と訳されるが、**この２つは一見同じことを言っているように見えて、実は大きな違いがある**ということが分かるだろうか。例えば下のイラストである。



どちらのイラストにも野球観戦をしに来た３人の子どもと、３つの木箱が書かれている。しかし「平等」を表している左側のイラストでは、３人ともに等しく１つずつ木箱が分け与えられているのに対し、「公正」を表している右側のイラストでは、木箱を与える数を調整して全員が同じ高さで見られるようにされている。**この２つのイラストを比較したとき、私たちが目指すべき社会はどちらだろうか？**答えは言うまでもないだろう。

ところが今の社会では、左のイラストの例のように「同じに扱うこと」こそが社会の目指すべき姿だと勘違いするあまり、ちょっとでもそれから外れるとすぐに「不平等」だと言ってヘソを曲げる風潮がありはしないだろうか。例えばこんな話を聞いたとき、みんななら一体どんな評価を下すだろう。

> 10 人の男女（例えば男４名、女６名）に、100 個の重い荷物を運ぶ仕事を依頼したところ、仕事が始まって 30 分ほどたち、荷物が半分ほどになったところで２人の男性が休憩し始めた。どうしたのかと聞くと「自分たちはもうすでに 10 個運んで自分の役割は果たした、後はほかの人の分である。」と答えた。まだ仕事は残っているのでみんなを手伝ったらと促したが、「そんなの不平等である」と言って取りあわない。結果、仕事が全部終わるまでに１時間かかり、その間その２人は荷物を運ぶこともなく、みんなの仕事が終わるのをボーっと待っていた。

この例が示すように、一人ひとりが過度に平等を主張し始めると、とたんに社会は「協力」や「効率」といった言葉からかけ離れ、各々が自分の権利や立場ばかりを主張する生産性の低い集団となり、結果として自分たちの首を絞めることになるのである。

私たちが目指すべき社会は間違いなく「公正」な社会である。それは、右のイラストのように**何らかのハンデを抱えた者にはその差を埋める適切なハンデキャップが与えられる社会**であり、**何かに挑戦したり参加する機会が平等に与えられる社会**である。また、**他人より優れた能力や恵まれた環境を持つ者は、それを他人のために惜しげもなく使うことができる人（これを西欧では Noblesse Oblige という）を育てる社会**でもある。**このような社会を作り上げるためにも、今何を学び、何をするべきかを、卒業式まであとちょうど１年となった今、よく考えてもらえたら**と思う次第である。

保護者のみなさまへ

①新３年次生 教科書の販売について

３月１５日（日）は新３年次生の教科書販売日です。柳正堂書店（イトーヨーカドー甲府昭和店）にて、指定された教科書を各家庭で購入してください。詳細は後日、案内を配付します。

②新年度に向けて

今年度も残すところあと１カ月となりました。３月は球技大会などの学校行事に加え、高校入試や新入生オリエンテーションなどで家庭学習日となる日が多く、学校で授業を受ける機会も少なくなります。この期間をどう過ごすか、どのように学習に向かうかによって、３年次のスタートをどう切れるかが決まってくると思います。これまでの高校生活を振り返り、今後どのような目標に向かって取り組んでいくのかを、御家庭でもう一度話し合う時間を持っていただければと思います。これまで以上に学校と家庭とが連携を図りながら、お子様の進路実現に向けて誠心誠意取り組んでいく所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

【３月の予定】　**３／４（水）より年度末まで臨時休校措置が取られています。**

日	曜	主な行事	日	曜	主な行事
1	日	第 72 回卒業式	17	火	B
2	月	3/1 の代休	18	水	B　短縮 50 分授業 入学許可予定者オリエンテーション準備
3	火	行　第４回定期試験、後期募集検査会場準備	19	木	入学許可予定者オリエンテーション ※生徒家庭学習日　春季特別課外（外部～3/22）
4	水	後期募集選抜検査　　※生徒家庭学習日	20	金	春分の日
5	木	後期募集選抜検査採点　※生徒家庭学習日	21	土	米国短期留学帰国
6	金	A　個人写真撮影	22	日	
7	土	米国短期留学出発	23	月	A
8	日		24	火	B
9	月	行　きずなの日、答案返却	25	水	行　後期終業式、退任・離任式、大掃除
10	火	行　球技大会（雨天時は 13 日に順延、A週の授業）	26	木	学年末休業（～4/6）、単位追認試験
11	水	A	27	金	
12	木	行　合格発表　※生徒 13:00 以降登校、講演会	28	土	
13	金	B　球技大会予備日（10 日が雨天の場合）	29	日	
14	土		30	月	
15	日		31	火	
16	月	B　きずなの日、進路ガイダンス			

【先生方からの寄稿】　最後は６組の担任・副担任の先生方です。

「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ」　　**６組担任　松田　光司**

この一年間，勉強に部活に忙しい中，鳳凰学での探究を進めてきましたね。探究は，「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ」で一つのサイクルです。一つのサイクルが終わるとまた次の「課題設定」につながり，スパイラルになっていきます。今みんなは一つ目のサイクルの「まとめ」として論文に取り掛かっている段階ですね。先日，県外の先進的な探究をしている学校の先生に，「探究で，生徒が『論文を書いたら終わり』と思っているとマズいですね」と言われました。このとき，私は正直ドキッとしましたが，みんなはどう思っているでしょうか？

では，なぜ探究をしなければならないのか。「どのように生きるか」。これは，高校生に限らず，人生において節目節目で考えることだと思います。西高の校訓である「自己を知り　自己を深める」のも「どのように生きるか」を考えるためではないでしょうか。「どのように生きるか」は複雑な事象ですぐに答えが出ません。唯一の正解があるわけでも，画一的な指標で優劣が決まるわけでもありません。これほど探究する価値のある課題（「解決しなければならない問題」のことであり，「宿題」のことではない）はないでしょう。一生かけて探究していくものだと思います。だからこそ，探究の手法を身につけることはとても重要なことだと思っています。みんなに探究の手法がどの程度身についているのか…。私にとってはこの鳳凰学が課題研究でした。いま今年度の鳳凰学での取り組みを「まとめ」，次への「課題設定」をしています。反省だらけです。みんなが「論文を書いたら終わり」と，そう思ってしまっているとしたら，それは私のせいです。でも論文の完成は目的ではありません。探究は，「どのように生きるか」を考え，数値化できない能力を高めるための核となる手法です。論文はその中の一過程に過ぎません。また，探究は日々の生活の中でもできます。ぜひ「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ」のサイクルを，授業や部活，何か判断に迷ったときに意識してみてください。

「自分を超えること」　　**６組副担任　野崎　康子**

昨年大リーグ・マリナーズのイチローさんが現役引退されました。その記者会見では、心を打つ言葉をいくつか残されましたが、私は、その中で「自分の限界をちょっと超えていく。その積み重ねでしか自分を超えていけない。」という内容のことをおっしゃったのが印象に残っています。

天才のイチローさんと違って、凡人の私自身は“限界を超える”などということはとてもできませんが、思い起こせば、高校生の頃は“できないと思っていたことがやってみたらできた”という、ちょっとした経験が今よりも多くあったように思います。

実際の例を挙げれば、私は他県の出身ですので、高校の“マラソン大会”は５～６km、中学校は 2km ほどの距離を走るものだったのですが、高校での初めての大会を思い出します。山梨県の皆さんには笑われそうですが、その 5km 超の距離は、帰宅部の運動嫌いの私には果てしなく長い距離でした。しかも、学校から離れた競技場を使って行われた大会当日のスタート（多分男女同時）は、ほかの生徒たちが練習よりかなり速いペースで走り出し、泣きそうでした。仕方がないので、周りほどではないにしろ少し早いペースで走り出し、どこでペースを落とそうか、いつ歩きだそうか、そんなことばかり考えていました。それでも、いつもと違う場所の風景を見ながら進むと、案外気分がよく、足が重くなって多少ペースは落ちたものの、一番びっくりしたのは自分でしたが、最後まで走ってしまった、という、ささやかな自信となった経験になりました。

振り返れば、そのころから今に至るまでずっと、運動に限らず、似たような小さな「なんだ、自分にもできるんだ」ということを繰り返しながら、少しずつ前に進んできた、とつくづく思います。高校生の皆さんは、今もこれからも、大小さまざまな、初めて経験する得体のしれない課題や高い壁に向かわなければならないことがあると思います。どうしても楽にクリアする方法を考えがちですが、思い切って正面からぶつかってみるのもあり、ではないでしょうか。積み重ねれば自分を超えられるかもしれません。